

「トイレの便器数に係る基準と適用のあり方に関するガイドライン」（令和8年6月策定）

ガイドライン策定の背景

令和7年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2025」において、女性用トイレの利用環境の改善に向けた対策の推進が位置付けられた。

上記を受けて、国土交通省では、男女を問わず誰もが安全で快適にトイレを利用できる環境の実現を目指し、トイレの便器数に係る基準の点検・見直しに関する基本的な考え方を含め、トイレの行列問題の改善に向けた対応方針を策定。

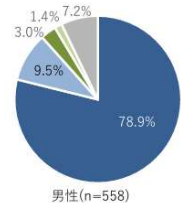
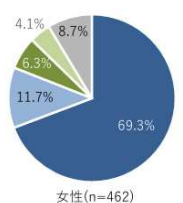
主な対象	基準を策定する者、施設を設計又は管理する者
対象となるトイレ	不特定多数の者が利用する施設の公共トイレ
位置づけ	法的拘束力はないが設計・改修のガイドライン
方向性	利用実態を踏まえ、男女を問わず安全で快適に利用できるトイレ環境を目指す ①利用者構成や占有時間の変化を踏まえ、男女を問わず快適に利用できる基準とすること ②利用者が概ね男女同数である施設では、原則として女性便器数が男性便器数以上となる基準とすること（男性便器数は、大便器と小便器の合計）

行列の実態とトイレ利用環境の変化（国土交通省の令和7年調査より）

単位（％）（赤字は増加）、男性 n=558、女性 n=462

	駅		駅以外の交通施設		コンビニ		大規模商業施設 ²		公園等		職場	
調査年	H28	R7	H28	R7	H28	R7	H28	R7	H28	R7	H28	R7
男性	31.3	35.3	24.3	23.5	16.6	21.9	15.5	17.7	3.4	4.5	3.4	3.4
女性	44.0	55.2	44.2	47.2	11.6	13.6	47.6	47.4	2.4	2.6	5.3	7.6

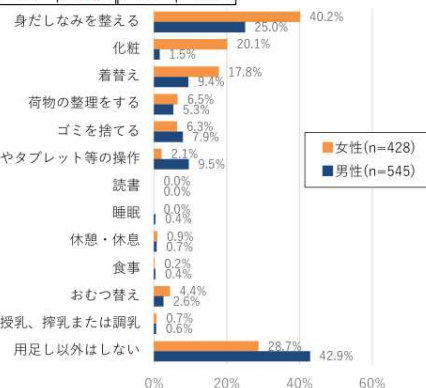
「利用するために行列に並ばなければならない」を選択した人の割合



洋式便器を好む人：81.0%
和式便器を好む人：10.4%

洋式便器を好む人：88.4%
和式便器を好む人：4.4%

■ 洋式便器
■ どちらかという洋式便器
■ 和式便器
■ どちらかという和式便器
■ 空いていればどちらも



駅のトイレの個室における用足し以外の目的での利用

ガイドラインのポイント ⇒ データで実態把握を要請!!

- ・男女問わず安全で快適に利用できる環境を目指す
- ・利用者が概ね男女同数の施設においては、女性の便器数を男性の便器数以上とする
- ・**利用実態データをもとに、便器数や面積配分を見直す**
- ・**基準の適用には、実態調査等によるデータの収集・反映が重要**

施設の用途	サンプル数	女性便器数／ 男性便器数 の平均値
1. 駅	190	0.63
2. SA/PA	52	1.07
3. 道の駅	50	0.96
4. 空港	35	0.66
5. 旅客船ターミナル	28	0.77
6. バスターミナル	14	0.71
7. 商業施設	22	1.19
8. 劇場・ホール	13	1.93
9. スタジアム・アリーナ	12	0.98
10. 映画館	5	0.89
11. 美術館・博物館	4	1.02

国土交通省 令和7年調査より

利用実態データ把握の視点

- ・季節、曜日、時間帯、近隣含むイベントの有無等による混雑状況の違い
- ・男女比、年齢構成、子供の有無等の属性による利用形態の違い
- ・トイレの位置、周囲の施設、階数等による利用形態の違い
- ・どこで行列が発生して、どれぐらいの待ち時間が発生しているか？
- ・便器（大・小）の利用割合
- ・便器の利用頻度の格差（空いているのに特定箇所に集中する等）
- ・プライバシーに配慮した調査手法の検討
- ・関係者や高頻度利用者からの定性的な情報の取得

一時的・局所的な行列発生要因/想定事例（ガイドラインより）

要因例	想定される事例
朝や夜などの時間帯	出勤・退勤時の駅のトイレ等
平日・休日などの曜日	休日の商業施設のトイレ等
GWなどの時期	GWの観光地のトイレ等
雨天などの天候	雨天時の屋内施設のトイレ等
交通機関の発車前・到着後など	観光バス到着後のサービスエリアのトイレ等
施設の出入口	当該出入口周辺のトイレ等
利用者が集中するテナント	当該テナント周辺のトイレ等
交通機関の発車・到着場所	空港の到着ロビーのトイレ等

弊社は、**ガイドラインに示される用途の施設で数多くの調査実績**があります。
（利用者数のカウント、利用者に対する対面ヒアリング、目視による行動観察や機器を使った観測等）
また、高速道路会社グループのクライアントから、**SA/PA（サービスエリア/パーキングエリア）におけるトイレの利用実態調査にも実績**があります。